



日本アカデミー賞協会は、シネマエール東北の「東北に映画を届けよう！」に賛同し、2013年から3部門(日本映画・日本映画アニメーション・外国映画)の最優秀作品賞受賞作品の上映を関係者の協力を得て実現して来ました。今夏は「アナと雪の女王」上映から始まりました。

8月1日、土曜日。全国的な猛暑は福島県南相馬市原町区でも同様でした。それでも浜通りと呼ばれるこの地域は、福島駅のある中通りほどには気温が上がらないのが幸いです。この日の福島市内は37度を記録しましたが、原町は32度。問題は古い建造物である朝日座にはエアコンが整備されていないと言う事です。そこでこの日、上映関係者は様々な準備をして下さいました。まずは、来場者全員に南相馬名物<アイスまんじゅう>の冷たいプレゼントが配られ、加えて場内には6本の氷柱と扇風機を設置し、客席へ冷風を送る工夫をしてくれたのです。



60年以上続くの伝統の冷菓



製造元の松永牛乳からは氷柱も提供頂きました

今回は、昼夜2回の上映。昼の部(午後1時30分～)は『吹き替え版』の上映です。母娘を中心としたお客さまが次々と来場。みなさんに場内の暑さのお詫びをしつつ、万一の場合はロビーでお世話係がお待ちしていることを伝え、いよいよ上映が始まりました。

上映中の場内では、うちわや扇子が動き続け、途中トイレに立つ子供が数人いましたが、気分が悪いと訴える人もなく無事に終了しました。観終わってロビーに出て来る子供たちはさすがに暑そうな様子でしたが、それでも「楽しかった！」と大きな声で言ってくれる子供たちがたくさんいました。お母さんたちは「家で何回も見ているのに大き

いスクリーンが良かったんですね」と子供たちの感想にこちらも満足そう。

70名を超えるお客様が来場し、無事の終了と大好評の感想に関係者一同ホッと胸を撫で下ろしました。

夜の部は『字幕』での上映です。カップルが多くなると思っていたのですが、それ以上に独りで来られる男性客も多く、合計30名を超えるお客様が来場されました。終映後、〈朝日座を楽しむ会〉の皆さんがロビーに冷たいビール・飲み物と食べ物を用意して、鑑賞を終えたお客さまに〈しゃべり場〉を提供して下さいました。

「映画はみんなで一緒に観るのが良い。そして観た後に一緒に話すのがまた楽しい」

「やっぱり大きいスクリーンはいいわ」

「音も画も良かった」

様々な感想の声が上がり盛り上がる中、話は次第に朝日座そのもので映画を観た思い出に移って行きます。

「小学生の頃は割引券もらって来たな」

「子供の時は舞台の上に乗って見た」

「二階の炬燵(こたつ)に入ったのが楽しかった」

続々と面白い昔話が飛び出します。こうして観客の賑わいを取り戻した朝日座上映会は大好評の内に無事終了しました。

シネマエール東北とコラボした最優秀作品賞の上映会は秋まで各地で開催予定です。



昼の部の開映前 元気なちびっ子たち



夜のしゃべり場は映画ファンで盛り上がりました

【現在の朝日座の成り立ち】

関東大震災の年1923年に「旭座」として誕生。1952年、「朝日座」となり、当時は当たり前だった映画も実演もできる劇場として、原町・小高・鹿島の人たちに長く愛されてきました。1991年に惜しまれながら常設の映画館としての興行を終了し、この時を以って同地区には映画館が無くなりました。

それから20年後、2011年の東北大震災とその後の原発爆発を受けて、地域のシンボルとしての「朝日座」への関心が地元で高まりました。そして市民の中から〈朝日座を楽しむ会〉が誕生、今日まで月一度の映画上映やライブの開催を中心とした活動が続けられています。朝日座→<http://asahiza.blog.shinobi.jp/>